

中核的施設と空間デザインの検討概要

【平成29年度 第1回 石巻南浜津波復興祈念公園有識者委員会 資料】

平成29年12月15日

1. 公園の基本理念と基本方針(H25基本構想にて設定)

基本理念

東日本大震災により犠牲となったすべての生命(いのち)への追悼と鎮魂の思いとともに、

- まちと震災の記憶をつたえ
- 生命(いのち)のいとなみの杜をつくり
- 人の絆(きずな)をつむぐ

基本方針

・犠牲者への追悼と鎮魂の場を構築する

宮城県や被災地全体の追悼と鎮魂の中核的な場所として、祈りの空間を整備する。

・被災の実情と教訓を後世に伝承する

この地のこれまでの歴史と震災後の環境変化、被害を実感し、教訓を伝承する場を整備する。

・復興の象徴の場としてメッセージを国内外に発信する

美しい杜への再生により、震災からよみがえる被災地の姿と重ねあわせた復興の象徴空間を整備する。

・多様な主体の参画・協働の場を構築する

人と人とのつながりの再生が、真の復興につながるため、多様な主体が参画・協働できる場を構築する。

・来訪者の安全を確保する

適切な避難が円滑にできるよう、避難場所となる丘や周辺の高台への避難経路などを整備する。

2. 公園の基本デザインコンセプト(H26基本計画にて設定・H27基本設計で具体化)

(2) 基本デザインコンセプト

～浜・街・追悼と伝承の場所性を重ねる～

- かつての環境と現状を踏まえ、土地本来の自然を育む
- 暮らしの記憶を街路網に刻み、これを感じる
- 追悼と鎮魂の思いとともに、まちと震災の記憶をつたえ、生命(いのち)のいとなみの杜をつくり、人の絆(きずな)をつむぐ

土地の履歴

- ・ かつての湿地と松原であった場所。
- ・ 津波で街が消失、本来の自然に回帰しつつある。

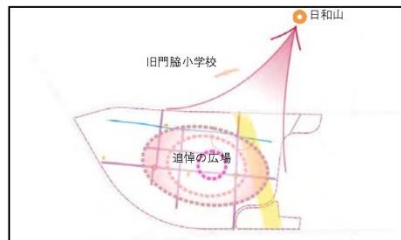
街の記憶

- ・ 市街地が大津波で消失したが、暮らしの記憶を再生する手がかりが残っている。
- ・ 人々の心に暮らしの記憶がある。

追悼と伝承

- ・ 自然への畏敬の念と暮らしの記憶を持ち、追悼と教訓の伝承とともに、復興への意思を伝え続ける。
- ・ 命の尊さを実感する公園づくりを通じてこの土地に係わり続けていく。

追悼と伝承



追悼と伝承（東日本大震災後）

犠牲者への追悼と鎮魂の思い
地震と津波、その後の火災で甚大な被害を受けた記憶
日和山に避難した記憶
災害への備えと教訓の伝承の思い

東日本大震災の発生

街の記憶



街（昭和30年代～東日本大震災まで）

- ・ 利便性が高く、閑静な住宅街
- ・ 南浜町二丁目、三丁目からの宅地化の進展
- ・ 震災前の街の記憶
- ・ 元住民の暮らしの記憶

市街化の進展

土地の履歴



浜（昭和20年代まで）

- ・ 善海田と呼ばれた水田と湿地
- ・ 浜堤地形と松原
- ・ 聖人堀
- ・ 集落の形成された微高地
- ・ 水や海の安全を祈願した史跡

祈念公園

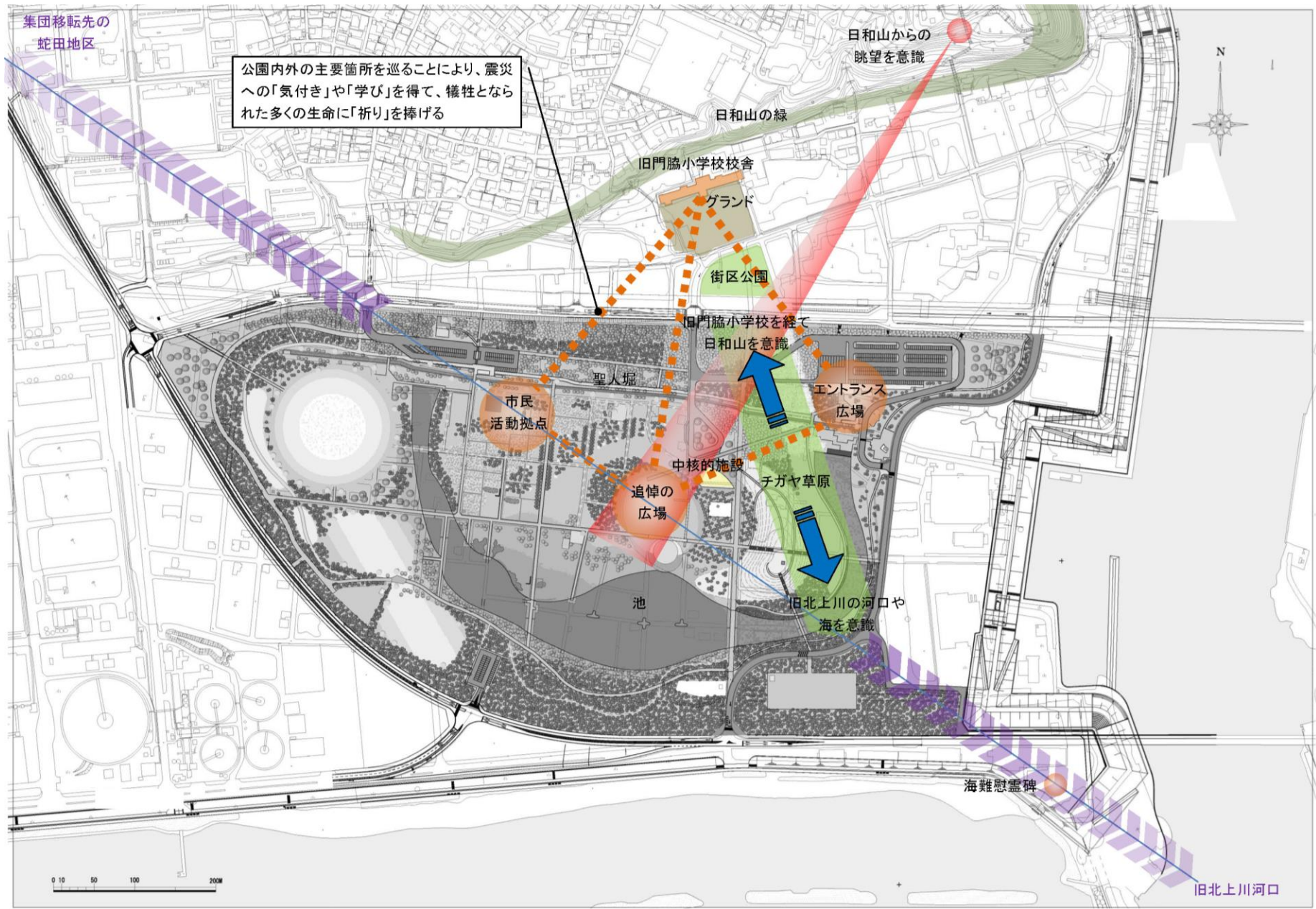
南浜地区の土地の履歴を示すかつての「浜」、市街化後の南浜地区への想いや記憶が残る「街」を土地利用の前提とし、東日本大震災による犠牲者を追悼し、被災の教訓を次世代へと伝承していくことを祈念する

- 公園全体が「犠牲者の追悼ができる」空間
- かつて街と暮らしがあったことを実感できる空間
- 式典や伝承が可能な中核的空間
- 雨水調整と自然の育みを併せ持つ湿地・池沼
- 美しい杜づくりと多様な主体の参画・協働

- 街の遺構（街路、聖人堀、史跡、建物基礎）
- 本来の自然に回帰した湿地環境
- 浜堤地形と松原

- 市民のこの地への係わり方を組み立て、プロジェクトとしてつくり続ける

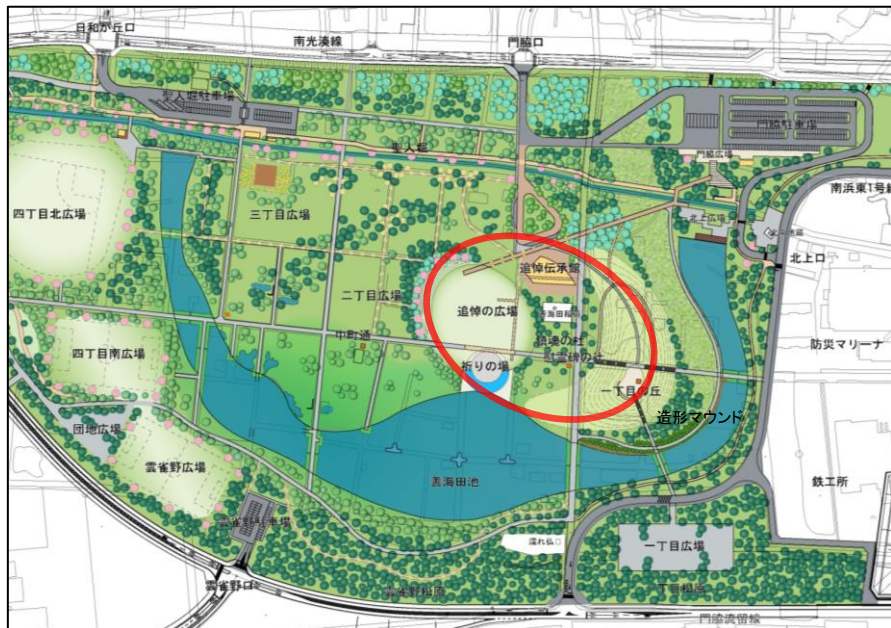
3. 旧門脇小学校や日和山との関係性(H28実施設計にて整理)



4. 祈りの空間デザインと中核的施設の役割

○「祈りの空間」の空間デザイン(H28実施設計)

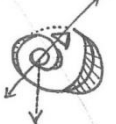
- 祈りの空間は一丁目の丘と造形マウンドに抱かれた静謐な空間として緩やかな曲線による楕円線形で円環形状とする、式典時に約3,000名を収容する規模として面積約8,000㎡を確保する。
- 祈りの空間に配置する中核的施設は、取り囲む一丁目の丘ならびに造形マウンドと祈りの場をつなぎとめる役割を担う建築と位置づけた。



追悼・祈念の思いが祈りの場から日和山へ繋がる空間



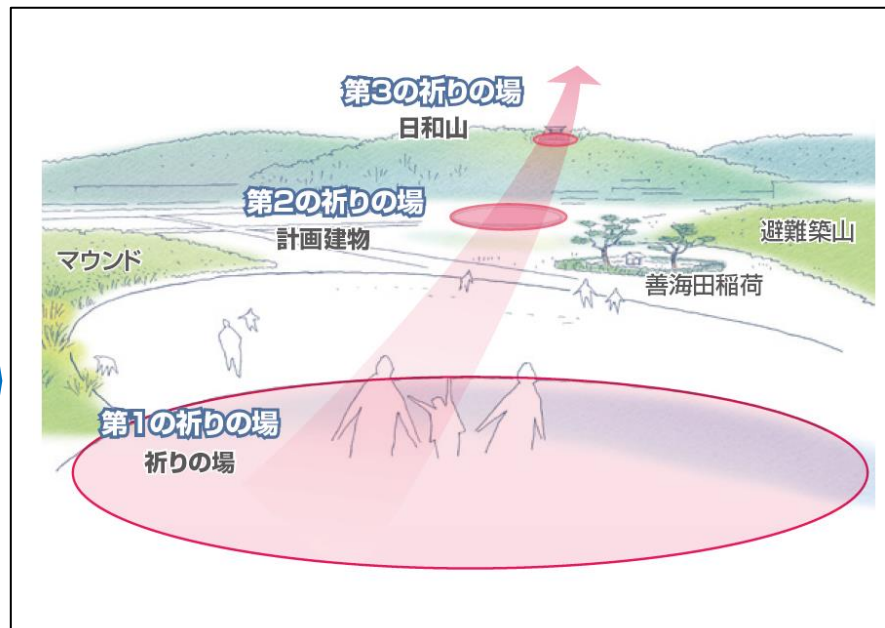
一丁目の丘と造形マウンドで祈りの場を包みこむ柔らかな空間



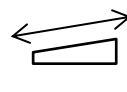
中核的施設は祈りの空間の領域性を創る法面と祈りの場を繋ぎとめる

○中核的施設計画への反映(H29建築基本設計)

- 対面する「祈りの場」の円環形状と全方位への思いから、建物を円形とし、双方の関係性に配慮した象徴的な祈りの空間を形成する。
- 善海田池に接する祈りの場は「第1の祈りの場」であり、中核的施設を「第2の祈りの場」、日和山を「第3の祈りの場」と位置づけ、祈りに対する意識のつながりと視覚的につながりが形成される配置とする。



ランドスケープを構成する各要素に向けた来訪者の全方位への思いを受け止める円形の建築形状



日和山から中核的施設越しに祈りの場が認識できる屋根形状



ランドスケープデザインと呼応する街の記憶（街路）の取り込み

5. 中核的施設のデザインの考え方(H29建築基本設計)

国営追悼・祈念施設(仮称)の中核として、「象徴性」を具現化しつつ、ランドスケープデザインや周囲の震災遺構との関係性に配慮した計画を行うことを特に重要と考え、外観・内観のデザインを計画した。

○外観デザイン

【円形屋根】

- 公園の基本方針に示される「復興の象徴となる美しい杜」の中に、円形の薄い屋根がふわりと浮いてみえるような外観とした。「円」形状とすることで、建物の「象徴性」を具現化した。

【ガラスファサード】

- 外周部はガラスを用い、祈りの形態や街の記憶を受け止める全方位に開かれた空間とした。

【深い軒下の「円環テラス」】

- 建築周囲は、半屋外的な空間を計画し、荒天でも語り部や震災学習など多様な活動が可能な場とした。

○内装デザイン

【ランダムに林立した丸柱】

- 細い丸柱を建物内外にランダムに林立させ、公園の基本方針に示される「復興の象徴となる美しい杜」と視覚的につなぐデザインとした。
- 柱の位置によって、大小様々な場・領域を形成し、個人個人の想いが集まる「第2の祈りの場」にふさわしいデザインとした。

【記憶の街路】

- 計画地に残る街路の記憶として、「記憶の街路」動線を設け、建物と周辺のランドスケープが、ひとつに接続される計画とした。

【光と影で「震災発生時刻」を表現】

- 震災発生時の影のラインを外構及び室内に床面に落ちる光と影で震災発生時刻をあらわし、「震災の記憶と教訓の後世への伝承」を図るものとした。

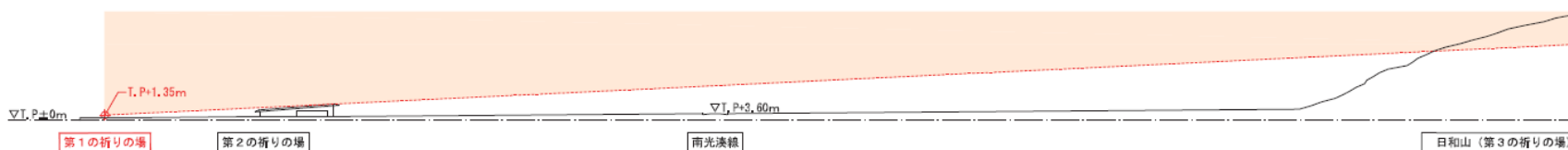
6. 中核的施設の断面計画 (H29建築基本設計)

○基本的な考え方

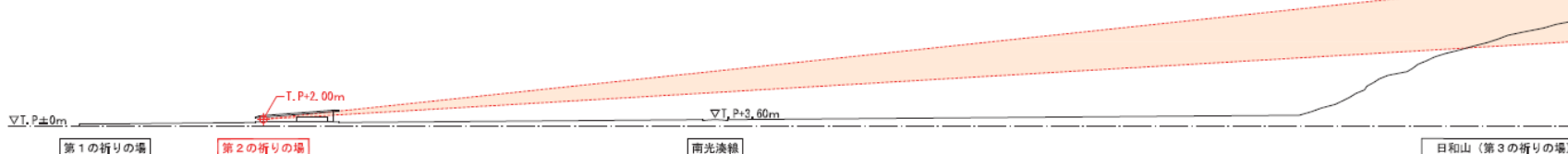
「祈りのつながり」を強調するために3つの視点場からのサイトラインを重視した断面計画とした。

1. 第1の祈りの場(屋外の祈りの場)から日和山が見える(感じられる)
2. 第2の祈りの場(屋内の祈りの場)から日和山が見える
3. 日和山から第1の祈りの場(屋外の祈り場)が見える

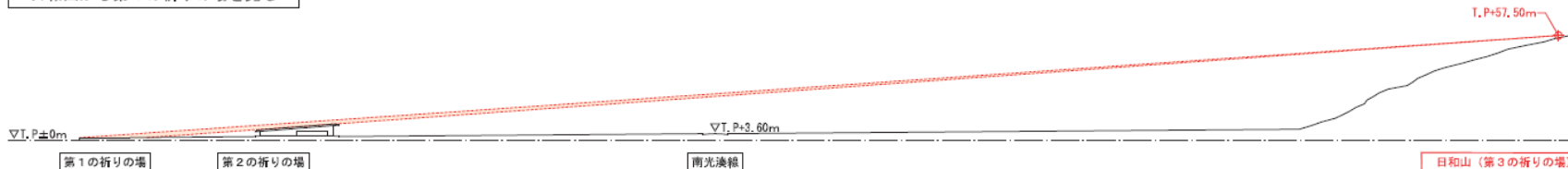
第1の祈りの場から日和山を見る



第2の祈りの場から日和山を見る



日和山から第1の祈りの場を見る



第1の祈りの場(屋外の祈りの場) : $T, P + 1.35m$
第2の祈りの場(屋内の祈りの場) : $T, P + 2.00m$
第3の祈りの場(日和山 鹿島御児神社) : $T, P + 56.00m$ (※)

※ 視点は地面から1.5mの位置 ($T, P + 57.50m$) とする

8. 中核的施設の計画イメージ(H29建築基本設計)



©NTT空間情報株式会社

7. 中核的施設の平面計画 (H29建築基本設計)

○建築意匠の考え方

1 「全方位性」を高める「円形平面」
日和山、「祈りの場」、善海田稲荷、北向き地蔵、旧門脇小学校、市民活動拠点、地域の歴史や震災遺構など、全方位に向けた「対面性」を重視した平面形状。

2 屋内の「祈りの場」の設定
高齢者や身障者のアクセスのしやすさ、荒天時（雨・雪・暴風など）の安全性を考慮して、「屋内での祈りの場」を設ける。

3 「街の記憶」を取り込む
公園全体計画の考え方を尊重し、計画地にのこる街路跡を平面計画に取り込む。

4 光と影で「震災発生時刻」を表現
室内に設置を提案する献花台の位置や床面に落ちる光と影で、震災発生時刻をあらわし、記憶の伝承を目指す。

5 深い軒下の「円環テラス」
建築周囲の深い軒下に、幅の広い縁側「円環テラス」を設け、半屋外空間としての利活用を提案。例えば、軒下の休憩スペース、雨天時におけるボランティアの説明スペースなどに活用。

○間取りの考え方

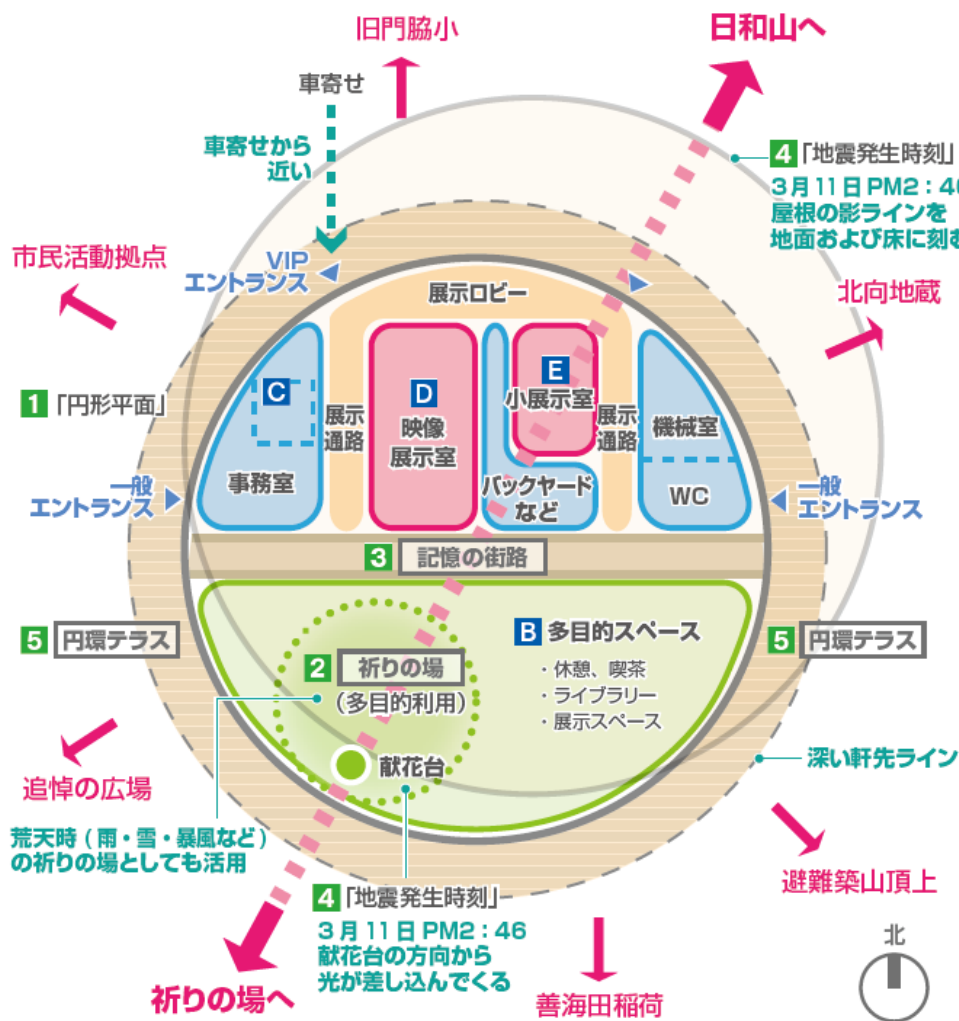
A 機能別ゾーニング
事務室や会議室など、室の利用方法が将来にわたって変化しにくい部分と、多目的スペースなど利用方法の変化に柔軟に対応すべき部分とを明確に区分。

B 多目的スペース
「屋内の祈りの場」であるとともに、集会・展示・ライブラリー・休憩・喫茶など、さまざまな利用に応じた柔軟な対応。

C 事務室への動線配慮
機能動線、車寄せとの近接配置。

D 映像展示室
約100人収容可能。会議や講演などの利用にも対応。

E 小展示室
2室一体利用や、可動間仕切りにより小グループでの利用など、様々なシーンに対応。



建築面積: 約1,500㎡
延床面積: 約1,300㎡

9. H28に検討した計画平面図



※施設名称は仮称であり正式名称ではありません

10. H29建築計画を反映した計画平面図

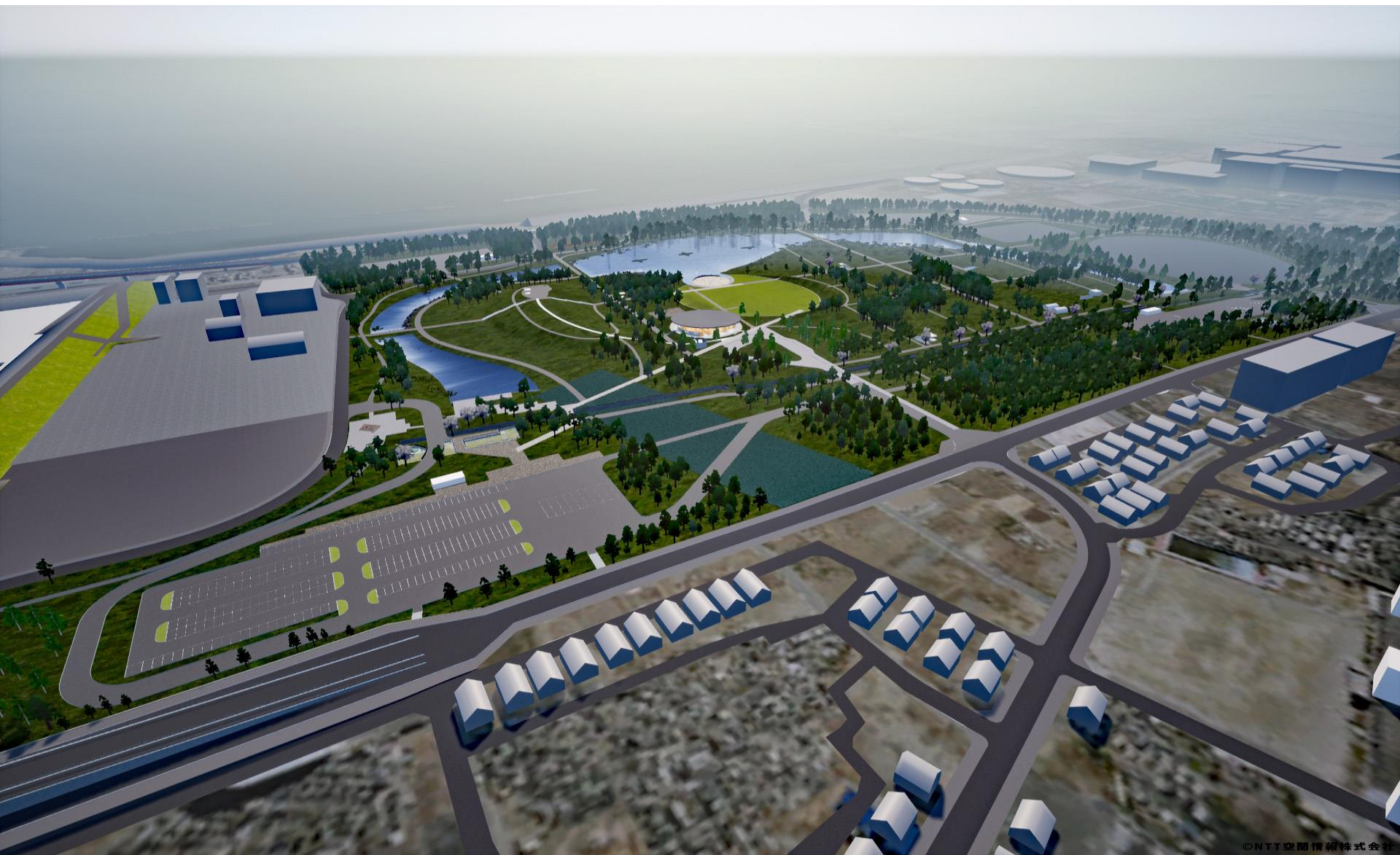


※施設名称は仮称であり正式名称ではありません

11. H28に検討した日和山方向から見た祈念公園のイメージ



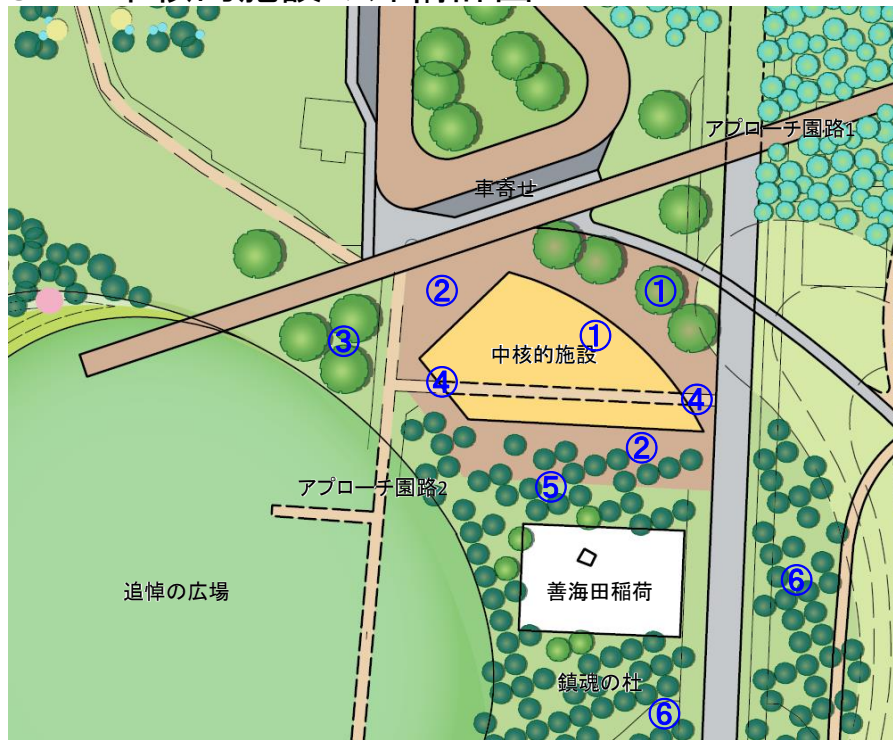
12. H29建築計画を反映した日和山方向から見た祈念公園のイメージ



©NTT空間情報株式会社

13. 中核的施設外構の空間デザインの検討

○H28中核的施設の外構計画



①	中核的施設は祈りの円環を一丁目の丘の稜線から受け流す壁面と植栽を設定した
②	アプローチ園路1及び2から中核的施設に出入りしやすいよう、建築周辺は舗装で囲むこととした
③	中核的施設の西側は、植栽による遮蔽を行うものとした
④	記憶の街路は、中核的施設周辺の広場舗装と異なる素材を使用し、屋内外で連続性を持たせた
⑤	中核的施設と善海田稲荷の間は、クロマツを植栽して緩衝空間を確保した
⑥	鎮魂の杜は、祈りの主動線となるアプローチ園路1を基準に配列した

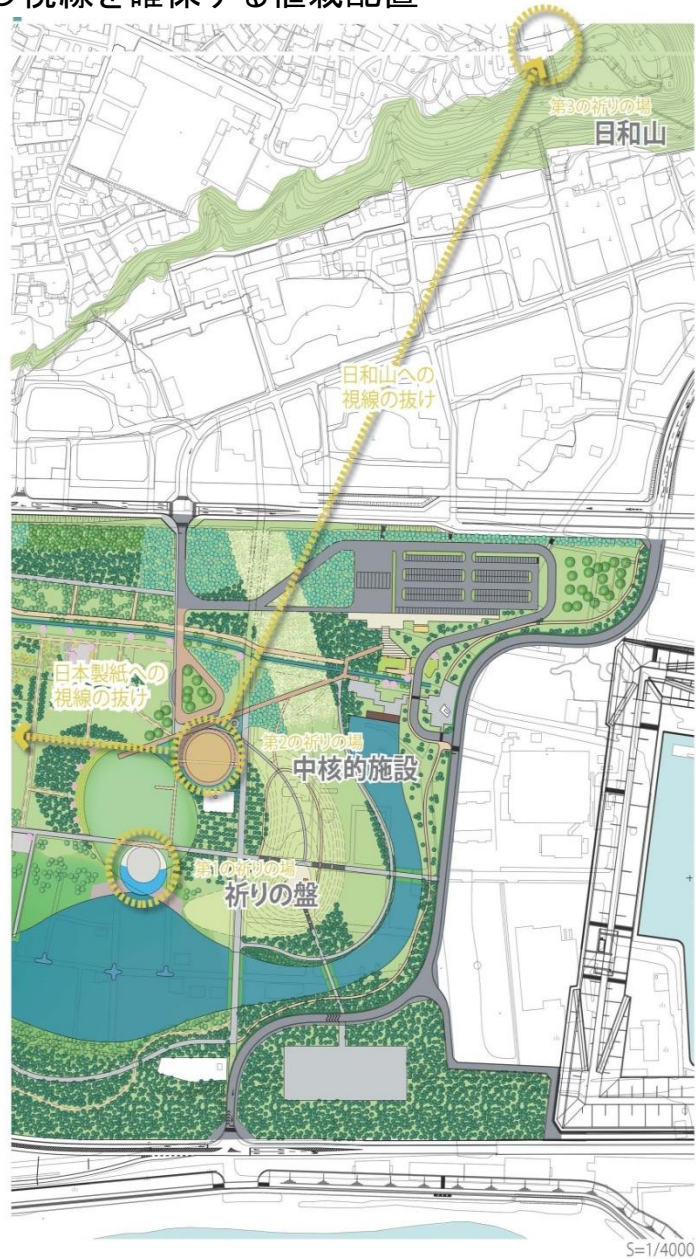
○H29中核的施設の外構計画



①	屋外機外壁を活用し、道行きから視認できない西側出入口へ誘導するサインを設置する
②	アプローチ園路1とアプローチ園路2の交差点は隅切を施し、西側出入口への誘導サインを設置する
③	アプローチ園路1とアプローチ園路2の交差点や西側出入口付近は植栽で遮蔽を行うが、日本製紙石巻工場の視認性は確保した
④	記憶の街路を明示するため低木(ハイネズ)を植栽する
⑤	法的に必要な非常口は低木を植栽し通常利用できないことを視覚的に伝える
⑥	鎮魂の杜は、街の記憶である震災前の街路網を基準に配列した

14. 中核的施設周辺の植栽計画の検討(H29実施設計)

○視線を確保する植栽配置



○中核的施設周辺の植栽計画

